

売れる米作りへ集会 水田フル活用など重点

【売れる米づくり・水田フル活用推進集会】



▲頑張ろう三唱で意思結集した推進集会

3月2日(水)、JA新潟中央会とJA県農対本部、県JA出荷結集推進委員会は、JAグループ新潟「売れる米づくり・水田フル活用推進集会」を、新潟市で開きました。県内の農業者代表やJAの役員ら1340人が参加。①飼料用米・大豆など戦略作物の生産拡大による水田フル活用②需要に応じた高品質・良食味米の生産などを決議し、意思結集を図りました。

集会は2部構成とし、第1部の「売れる米づくり・

出荷結集」では、JA全農にいがた米穀部の青木一也部長が、平成27年産米の販売状況や28年産米に向けた重点取り組み事項など、「新潟米」をめぐる情勢を報告し、出荷結集を呼び掛けました。

第2部の「今後の米生産・販売戦略」では、酪農学園大学の小池晴伴教授は「新たな米政策下における米戦略の方向について」北海道の現状を踏まえて」と題して講演。「現在は、米をめぐる状況の大転換点だ」と強調し、30年以降の生産調整の見直しや政府の農協改革、系統共販による食料安定供給の重要性、北海道の米戦略などを紹介しました。新潟大学の伊藤亮司助教は「コメ産地間競争の現局面と新潟米の生産市場対応の方向・論点整理」をテーマに講演。「新潟米の基本戦略を練り上げ、合意し、実行することが必要」と提言しました。

稲作部会が総会と「コシ」共進会 2年連続！塚田勇造さん（南部支店管内）に栄冠



▲受賞を喜ぶ塚田さん(中)、うちがまき絆の佐藤代表(右)

3月4日(金)、JA稲作部会は、総会と第31回コシヒカリ共進会をグリーンパークで開催しました。部会員やJA役員44人が参加し、平成27年度活動報告や28年度活動計画などを承認しました。

同部会の須田文夫部会長は「昨年は1等米比率の低下で収益が伸び悩んだ。天候以外の要因も考えられる。今年は研修会などにも積極的に参加し、全量1等米を目指してほしい」と呼び掛けました。JAの谷口熊一

組合長は「部会員の皆さんが先頭に立って、高品質・良食味米の生産を引っ張ってほしい」とあいさつしました。

総会では、役員改選も新しい、新部会長に片貝町の横山慎吾さんが選ばれました。共進会の最優秀賞には、2年連続で南部支店管内の塚田勇造さんが選ばれました。

共進会は、部会員が27年度に生産した「コシヒカリ」の食味値や軟着床率を調査・点数化して評価したものです。

最優秀賞以外の受賞者は次の通り。かつこ内は所属支店名。敬称省略。
▽優秀賞Ⅱ山田辰男(東小千谷)▽優良賞Ⅱ関平一(南部)、富沢武治(南部)▽努力賞Ⅱ川上和人(南部)▽組合長特別賞「食味部門1位」Ⅱ(農)うちがまき絆(南部)▽同「整粒歩合部門1位」Ⅱ塚田勇造(南部)

雪下になじん出番 品質良好

【小千谷人参生産組合】



▲「雪下になじん」を収穫する生産者

3月12日(土)、小千谷人参生産組合は、JA千谷野菜集出荷場に「雪下になじん」の出荷を始めました。今年には少雪のため昨年より2週間ほど出荷が早まっています。生育は平年と同様、順調に育っています。組合では、生産者12人がニンジン全体で6・9畝を栽培。そのうち「雪下になじん」には、2人が50^{アール}で

生産します。1週間で約1・2ト出荷し、総量は10トを見込んでいます。出荷は4月下旬まで続きます。

組合では、秋に収穫せずに雪の下で越冬させ、雪解けの進む3月頃から出荷する「雪下になじん」の生産にも取り組んでいます。

雪の下で越冬させることにより、「雪下になじん」はニンジン特有の臭みがなく食べやすいのが特徴です。

品種は、「雪中になじん」同様の「ひとみ5寸」と「雪下になじん」用に「らいむ」を栽培。品質を維持し新鮮でおいしい「雪下になじん」を届けするため収穫と出荷を同時に行っており、生産者は作業に追われています。

あつみ温泉で ゆったり、ほっこり



▲河田さん親子の民謡を楽しむ参加者

3月7日(月)から12日(土)まで、「あつみ温泉萬国屋2泊3日の旅」を実施しました。組合員ら総勢150人が2班に分かれて参加。ゆったりと温泉に浸かり、日頃の疲れを癒しました。今回は希望者を対象にクラゲドリーム館の観光を実施し、好評を得ました。宿では、河田カツ子さん、侑子さん親子の民謡と歌謡ショーを楽しみました。

温湯で殺菌消毒



▲種籾を温湯消毒するJA職員

3月4日(金)から3月末まで、平成28年産米用種籾の温湯消毒が、両新田のJA温湯消毒施設で行われました。日量約3トの消毒処理を行い、JA育苗施設では4月中旬から播種を開始する予定です。温湯殺菌技術は全国で広く使用され、ばか苗病、いもち病などへの効果が認められています。

もちもち食感で大満足 ワンコイン試食会

[JAこめっこレディース]



▲料理や活動を説明するこめっこレディースの皆さん

3月16日(水)、JA女性部こめっこレディースは、地域での米粉料理の普及拡大を目的に、ワンコイン試食会をグリーンパークで開催しました。

地域住民や女性部員、JA役員ら55人が参加しました。気軽に参加し米粉料理を楽しんでもらおうと参加費は500円。代表の中村一美さんは「多くの人が

ら参加してもらえた。米粉料理に興味を持ってもらえるよう試食会を継続していきたい」とあいさつしました。

今回披露した料理は「米粉ピザ」、「米粉のすいとん汁」、「米粉クレープ」の3品です。

参加者は「小麦を使った料理と比べ、米粉料理はもちもちと弾力がある。米粉ピザは端まで軟らかくておいしい」と話し、レシピに見入っていました。

JA女性部では、米粉料理を広く一般の方に普及させていくために活動して頂ける方を募集しています。米粉料理に関心のある方、料理の好きの方はJA生活福祉課までご連絡ください。お待ちしております。

☎ 83-3445

年金獲得部門ダブル受賞

[JAステップアップ大会]



▲阿部金融共済部長(左)、山口城川支店長(右)

3月7日(月)、JAバンク新潟主催のステップアップ大会が新潟市で開催されました。大会に於いて、当JAは優良JA表彰の年金獲得部門で最優良賞を、続いて城川支店が優良店舗表彰の年金獲得部門で優良賞を受賞しました。

是非、年金友の会会員となって、楽しく有意義な行事・イベントにご参加ください。

「楽しい」を広げる活動を

[JA女性部]



▲合併10年を記念してあいさつする歴代部長

3月12日(土)、JA女性部は、第10回通常総会をグリーンパークで開きました。女性部員ら110人が参加。平成28年度の活動計画などを承認しました。中村一美部長は「新しいことにチャレンジするためには一歩踏み出さなければなりません。皆さんの力が要だ」とあいさつしました。女性部合併10年を記念し、歴代部長の万歳で閉会しました。

春を呼ぶ「風船一揆」 JAも盛り上げ



▲JAグループ新潟の熱気球に試乗体験する来場者

2月27日(土)・28日(日)、雪国小千谷に春を呼ぶ風物詩「おちや風船一揆」が市内で開かれました。今回で40回目の開催となりました。市内の2会場では、熱気球フリーフライトや試乗体験などを展開。JAも参加してイベントを盛り上げました。両会場合わせて2日間で、2万人の見物客が県内

外から訪れました。

千谷会場では、係留した熱気球の試乗体験を行いました。来場者は、JAなどの熱気球に乗り込んで楽しみました。JA女性部は、米粉を使った「すいとん汁」を販売しました。

フリーフライトの離陸地である西中会場では、雪原にカラフルな熱気球10機が浮かび、県内外から集まった愛好家が空中散歩を披露しました。今年も少雪のため、熱気球大会「2016日本海カップ・クロスカントリー選手権」の競技フライトは中止となりました。

魚沼病院 「骨粗しょう症」を知らせ

骨粗しょう症について

JA新潟厚生連 魚沼病院
整形外科外来 看護師
駒形葉子

「骨粗しょう症」聞いたことはありますか？骨がもろくなってしまう病気で特に女性に多く見られるため、女性にとってはちょっと気になる病気ですよ。

骨粗しょう症は骨に含まれるカルシウムなどが減ることで、骨がスカスカになり折れやすくなる病気です。

変わらないように思えますが、骨は毎日、新陳代謝しています。古い骨はけずられ(骨吸収)、新しい骨がつくられます(骨形成)。この新陳代謝が、老化やカルシウム不足、運動不足、喫煙や飲酒。特に女性では、閉経による女性ホルモン量の減少によりバランスが崩れ、骨を作る量(骨形成)よりも、けずられる量(骨吸収)が増えると、骨量が減少します。その結果、骨がもろくなると骨粗しょう症になってしまいます。

若い人でも、極端なダイエット

や運動不足、ステロイド剤の服用などの影響でなることもあります。長年の生活習慣(タバコ、お酒、コーヒーの多飲、日照不足など)が原因の場合もあるようです。ひどくなると、咳やくしゃみなどのわずかな衝撃でも、骨折することがあります。また、背中や腰が激しく痛んだり、曲がることもあります。

では、骨を強くするためにはどうすればよいのでしょうか？

- ・食事をバランスよく摂りましょう。特にカルシウム(乳製品、小魚、海藻、緑黄色野菜など)、ビタミンD(魚類、干しいたけなど)やタンパク質(肉類、魚類、大豆製品など)を十分に摂ることを心がけましょう。
- ・日光浴をしましょう。カルシウムの吸収を高めるビタミンDは日光浴により皮膚でもつくられます。
- ・適度な運動を心がけましょう。骨に力がかかると骨を作る細胞の働きを活発にします。

まず、日頃の生活習慣を見直してみましょう。気になる方は一度、骨塩量の検査をしてみてもどうでしょうか？健康福祉祭や病院祭で測定できることもあります。整形外科外来にもご相談ください。